

実施内容	<p>概要説明後、発電所を見学した。見学は、事故当時の様子が残る部分へも注目しながら、廃炉への取り組みの状況が理解できるようなコースを設定した。</p> <p>見学コース：入退域管理施設 → 多核種除去設備 → トリチウム汚染水タンク → 1～4号機 外観確認 → 海側設備 → 乾式キャスク保管庫 → 非常用ディーゼル発電機（6B） → 夜ノ森線鉄塔倒壊現場 → サブドレン浄化設備現場 → 乾式キャスク保管設備 → 事務本館 → 免震重要棟 → 入退域管理施設 → 大型休憩施設（食堂、敷地内展望施設）</p>
実施日	平成29年2月3日（金）
対応者 （敬省略）	東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー 運営総括部 視察センター 山田 啓文、山西 敏一、水野 智史、中島 大輔 新潟本部 白井功
参加者	長岡技術科学大学 学生12名、教員7名

1F

IRID 専務理事吉澤厚文 講義テーマ

「福島第一原子力発電所事故の現場対応と廃炉～レジリエンスエンジニアリングの観点から～」



概要説明



大型休憩施設内敷地内展望施設



視察状況
(視察はバスにて行った)



1号機原子炉建屋西側 (35m 盤より)
(ちょうどカバーが外されていた)



3号機原子炉建屋北側

2F



事前説明を受けている様子



格納容器ペDESTAL内での
集合写真 (第1班)



格納容器ペDESTAL内で説明を
受けている様子 (第2班)

福島第一原子力発電所2号機内の燃料のようすをカメラが捉えたとの報道直後だったため、特に格納容器内(ペDESTAL)は印象的であった。長期発電していない発電所だからこそ入れるところも含めたウォークダウンを実施でき、構造(実際に見たときの大きさなど)などもよく理解できたと思われる。東日本大震災時の津波に対する対応に関する説明や、津波の痕跡などを見学できたことも大きかった。